

新収古写真展「古写真で見る明治の長崎」及び 古写真展「居留地時代の長崎」の実績とその評価

情報管理班長 吉村 淳

1. はじめに

1.1 目的

長崎市は、江戸時代の出島から幕末の外国人居留地の建設まで、我が国唯一、鎖国から開国にかけて連続的に海外との交流のあった都市であった。

長崎大学附属図書館では、長崎から日本各地に伝わった写真技術によって、特に幕末から明治・大正時代に撮影された古写真を昭和 63 年度の文部省大型コレクションとして購入受入以来、同コレクション経費により、平成 3 年度、7 年度、10 年度、13 年度と通算 5 回にわたり購入、さらに本学及び図書館独自の予算による収集を行った。今では 6 千点を越える「幕末・明治期日本古写真コレクション」として知られている。

附属図書館では、地域に開かれた図書館として、地域の方々への図書館の公開並びに資料の貸出と併せて、所蔵する貴重資料を利用した展示会の開催を通じて、生涯学習支援及び地域社会との連携を行ってきたが、整理作業の終わった平成 13 年度購入古写真についても、地元の方々には公開周知すべく、8 回目の古写真展示会を開催することとした。

1.2 概要

このことから今回は、地域社会（住民）との交流及び協力関係の構築ということに重点をおくことになり、開催時期は「多くの市民に見てほしい」という意図から、長崎市の冬の一大イベント「2004 長崎ランタンフェスティバル」に合わせて 1 月 22 日から 2 月 5 日までの 15 日間、長崎市出島史跡へトル部屋を第 1 会場に、また今年でオペラ蝶々婦人初演から 100 周年を迎え、観光客も多く訪れる長崎市グラバー園内スタイル記念学校を第 2 会場として古写真展示会を開催した。**(写真 1)**

第 1 会場は、当館が平成 14 年 3 月に受け入れた「新収古写真」の中から、特に、長崎関係の



写真 1. 展示会場

写真 50 点を厳選し、現在の様子を撮った比較写真も併せた「古写真に見る明治の長崎」とし、(1)外国人居留地、(2)中心市街地、(3)中島川、(4)稲佐地区、(5)長崎郊外、(6)長崎港のパノラマ、(7)長崎市街パノラマ、の 7 つのグループに構成した。

第 2 会場は、「居留地時代の長崎」と題して所蔵する古写真から 30 点を選び、公開した。

また、古写真に対する理解を深めてもらうために写真展開催期間中の 1 月 24 日（土）、25 日（日）の両日、長崎市「メルカつきまち」5 階ホールに於いて、当館古写真資料室のメンバーである本学教官による講演会が開催され、大盛況のなか、183 名の来場者は熱心に耳を傾けた。

(写真 2)

講師と演題は次のとおりであった。

- ・ 岡林附属図書館長「古写真に見る長崎の近代都市形成の黎明」
- ・ 姫野環境科学部教授「上野彦馬と外国人写真家の出会い」
- ・ 若木環境科学部教授「明治ジャパネスクー風景探索」
- ・ 勝俣教育学部教授「古写真で知る明治の箱根」



写真 2. 講演会場

2. 写真展実施計画

2.1 作業計画

5月13日、「附属図書館研究開発室会議」に於いて平成15年度の研究開発室プロジェクト（案）の中の「新規購入古写真展示プロジェクト」の提案並びに説明があり了承された。

8月上旬、平成13年度新規購入分610点の中から長崎関係の写真118点を抽出することから始まり、写真名等の一覧表を作成した。9月24日「附属図書館古写真資料室運営委員会」に於いて、展示会のタイトルについては今後検討していくこととし、期間は16年1月23日（金）～2月1日（日）の10日間の予定、会場については、出島史跡へトル部屋に決定した旨の説明があった。展示点数について、当初の計画では約100点予定していたが、重複分及び会場等の条件により、今回は60点程度になる見込みであるとのこと、とりあえず70点パネル化することとし、現状写真（比較写真）については、キャビネ版に引き伸ばすことにした。

また、解説文の執筆を岡林委員長、姫野、若木委員の3人が担当し期限を10月31日までとし、ポスター等を含め、すべてを11月末までに完了することを申し合わせた。

さらに、今回の実行委員として、岡林委員長、若木、吉村、下田の各委員が当たることになり、また、長崎市との共催開催の説明も行われた。

11月18日、当館に於いて、長崎市との初めての合同会議が行われ、その中で、今回の展示会を2会場で開催し、展示会タイトルについて

は、「長崎大学附属図書館新収古写真展：古写真に見る明治の長崎」及び「居留地時代の長崎」と確定し、期日を16年1月22日～2月5日の15日間、また、講演会も展示期間中の1月24日（土）25日（日）の両日14時～16時で開催することも同時に決定された。

12月5日、長崎市との2回目の会議では、最終的に開場時間を9時～18時、展示写真パネル第1会場50点、第2会場30点、及びポスター500枚、チラシ2,000枚を作成すること等に加え、会場の受付体制等附属図書館と長崎市の任務分担についてもすべて決定した。長崎市観光振興課とは、その後もオープニングセレモニーその他の打ち合わせを電話連絡等で頻繁に行った。

11月17日、職員による新収古写真展示会 W/G を結成し、実施計画の詳細、タイムスケジュール（別表1）等について、頻繁に検討を重ねた。

13年度購入分紹介を兼ねた記者発表を12月11日に行い、新年1月13日には新収古写真展の記者発表を長崎市記者クラブに於いて行った。はじめに浦瀬長崎市観光振興課長の挨拶があり、引続き岡林館長から概要説明が行われた。多数のマスコミ関係者が集まり、質疑応答がなされ関心の高さが伺われた。（写真3）最終的に準備が完了したのが1月中旬であった。



写真 3. 記者発表

別表1. 新収古写真展示会スケジュール

15、11月		12月	
1	8月上旬、13年度購入分610点から		後援依頼(マスコミ関係 部長、専門員)
2	長崎関係古写真118点抽出		解説文点数確認
3	9月24日、古写真資料室運営委員会で古写真展		ポスター、パンフレット、チラシ原案作成
4	開催の説明		
5			長崎市と打ち合わせ、記者発表マスコミ
6			依頼、会場時間、展示枚数等決定
7			
8			ポスター発注(500枚)
9			
10			
11			新収古写真展記者発表(14:00~)
12			
13			
14			
15			展示写真配列決定(第1会場)
16			展示用パネル納入
17	W/G結成		現状写真プリント納入、立て看板、チラシ
18	長崎市と打ち合わせ(展示会タイトル、		発注
19	期日、講演会期日、時間決定)		ポスター納入
20			
21	講演会タイトル決定		
22			展示会案内送付(学内・外)チラシ納入
23			ポスター、チラシ発送・掲示依頼
24			古写真運搬用手配(薬学部)立て看板
25			発注
26			パネル(拡大分)納入
27	W/G打ち合わせ		
28	新収古写真学内関係者披露案内送付		
29			
30			
31			
16、1月		2月	
1			
2			
3			
4			
5	仕事始め式		展示会最終日
6	展示会、講演会場人員配置		展示物撤去作業(午前中)
7	アンケート用紙作成		
8	記者発表案内送付、講演会場確認		
9	講演会チラシ完成		
10			
11			
12			
13	記者発表(長崎市記者クラブ)13時		
14	展示写真配列決定(第2会場)		
15	タイトル、解説パネル、パンフレット完成		
16	比較写真パネル完成、挨拶文パネル完		長崎市挨拶(館長、部長)
17	成、W/G打ち合わせ		W/G打ち合わせ
18			
19	展示会場担当者講習会		学報、文教速報、文教ニュース掲載依頼
20	第2会場展示写真搬出(長崎市)		
21	展示会前日、会場設営、展示写真確認		
22	展示会当日、オープニングセレモニー(11時)		
23			
24	講演会開催(岡林、姫野)メルカつきまち		
25	; ; (若木、勝俣) 14時~16時		
26			
27			報告書提出
28			
29			
30			
31			

2.2 経費について

平成 15 年度教育改善推進費（学長裁量経費）「附属図書館機能を活用した長崎大学情報メディア戦略の実現と法人化時代の附属図書館公開に関するプロジェクト」を申請していたところ、関係方面のご配慮により採択されたが、この中の企画の一つが、新規購入古写真展示プロジェクト、平成 15 年度展示会の開催であった。さらに、展示会場、講演会場の使用料などに長崎市当局の協力があり、計画が進められた。

主な経費計画は次のとおりであった。

・写真パネル作成費他(70 枚)	1,150,000 円
・現在写真(八切 50 枚)	55,000 円
・ポスター(500 枚)	85,000 円
・タイトル・解説パネル作成費	50,000 円
・広報費(発送費)	20,000 円
・消耗品費	30,000 円
・雑費	10,000 円
経費計画総額	1,400,000 円

最終的な附属図書館経費総額は、パネル作成費、消耗品費等の増加で 1,533,000 円となった。

長崎市の負担

- ・会場費（講演会場も含む）
- ・チラシ（2,000 枚）
- ・立て看板 4 枚（講演会場も含む）
- ・第 1 会場パート職員 1 名分経費

2.3. 人員配置について

第 1 展示会場では長崎市派遣のパート職員 1 名（9 時～17 時）と当館職員 1 名（1 日 2 交代制当番）が常時受付に在席して来場者への案内やアンケートへの対応等に当たった。

講演会場の 2 日間についても、同様に当館職員 5 名が受付や講演準備、会場整理を担当した。

2.4 ワーキンググループの結成

展示会をスムーズに行うために 11 月 17 日に附属図書館職員で W/G を結成した

目的：新収古写真展の企画・準備等

期間：平成 15 年 11 月 17 日～16 年 2 月 16 日
会議等開催日：11 月 27 日、12 月 22 日、

1 月 21 日、2 月 6 日、16 日

総合責任者：重里 情報管理課長

主査：吉村 専門員

下田 情報システム係長

宮崎 情報システム係員

小山 資料サービス係長

小森 参考調査係主任

宮脇 医学情報係長

平林 経済情報係長

このメンバーにより、タイトル・解説文の編集及びパネル作成、ポスター・チラシ、パンフレットの作成・送付、会場設営・撤去作業、アンケート集計等すべてが非常に手際よく処理され、今回の写真展が進行した。

なお、好評を博した現状比較写真の撮影は重里課長の労作であったことを付記する。

3. 古写真展の広報

3.1 後援依頼

12 月 1 日、地元のマスコミを安永事務部長と吉村専門員が訪問し、展示会の後援を依頼した。

その結果、長崎新聞社、西日本新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、NHK 長崎放送局、NBC 長崎放送、KTN テレビ長崎、NCC 長崎文化放送、NIB 長崎国際放送、長崎県、長崎国際観光コンベンション協会の 11 ヶ所から承諾をいただいた。

3.2 ポスター、チラシ

ポスター（写真 4）、チラシについては、いろいろ検討した結果、B2 及び A4 判の用紙を使用し、新収古写真の目玉でもある「南山手の洋館群」「諏訪公園の桜」「新大工町通り」の 3 枚の写真を中心に並べ、併せて古写真講演会の案内で構成した。

掲示については、学内各学部等のもとより、学外分は、長崎市観光課・文化財課、長崎市内の金融関係、郵便局、病院、長崎県内大学、市町村教育委員会、県立長崎図書館等公共図書館に依頼した。

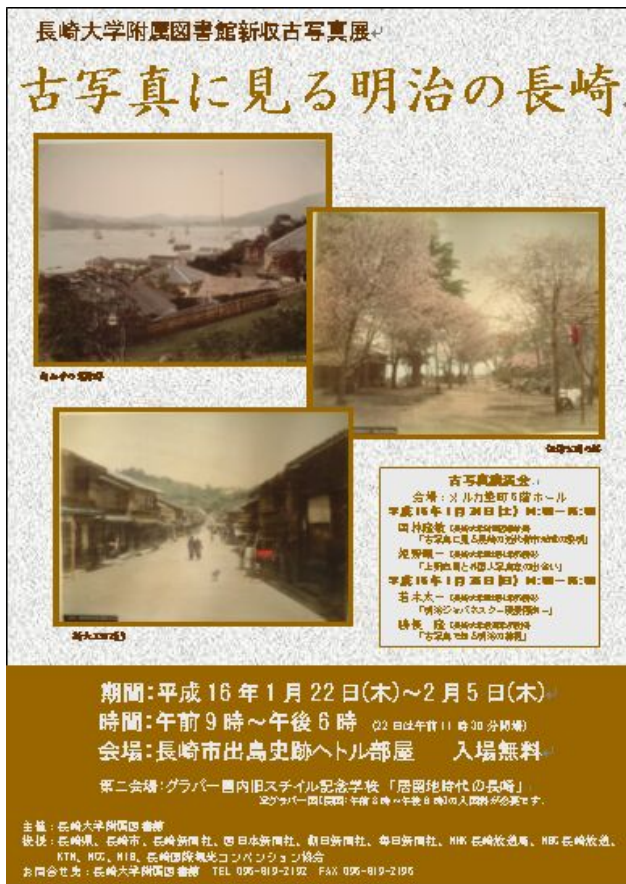


写真 4. ポスター

3.3 その他

長崎市の「広報ながさき」並びに「暮らしに役立つニュース宅配便」にも掲載された。また、附属図書館のホームページ上にも開催を掲示した。

なお、出島史跡ヘトル部屋（第1会場）には会場入口及び近くの電停前に各1個、長崎市グラバー園（第2会場）には会場入口に1個立て看板を立てた。

4. 写真展の評価

今回の展示会は、一般市民の方々の関心も非常に高く、更にランタンフェスティバルで来崎された観光客も含め、展示会来場者は約7,000人にのぼり、大盛況のうちに終了した。初めて公開された明治時代の長崎の変貌振りに目が注がれていたのが大変印象的であった。会場の熱気あふれる雰囲気に加え、その後の電話での問合せなど多くの反響が寄せられた。

来場された多くの方々は、10代から80才代

までの幅広い年齢層であり、後の展示会の参考にするため、アンケートを実施した。

アンケートに協力して記入していただいた2,216人、その中の1,105人から「時代の流れ、歴史を知ることができ大変勉強になりました」「忘れかけた思い出を懐かしく思い起こすことができ感動しました」「こんごも継続して開催してほしい」など、嬉しい感想や意見が寄せられ、古写真や長崎の歴史に対する関心の高さを伺えると同時に、来場者からの情報により解説文を更に充実させるなど、主催者側にとっても実りの多い展示会であった。

□マスコミ報道

開催翌日の新聞紙上には早速展示会の模様が記事として報道された。特に長崎新聞には「近代長崎の黎明」と題して、近代日本の形成に大きな役割を果たした明治時代の長崎とその雰囲気伝える当時の写真と解説文が、期間中掲載された。(写真5)

長崎新聞（1月23日～2月2日朝刊）
朝日新聞（1月23日朝刊）



写真 5. 長崎新聞連載記事

□テレビ放送

当日及び後日のテレビニュースで報道されたものは次のとおり。

N I B (1月22日18時30分～)

NHK (1月22日20時45分～)

NBC (1月27日18時～)

NCC (2月3日18時30分～)

長崎ケーブルテレビ

(1月15日、22日17,19,23時～)

□その他

文教ニュース (3月8日、第1769号)

文教速報 (3月10日、第6574号)

□会場アンケート

回答数 2,216人 意見あり 1,105人
意見なし 1,111人

(以下は意見ありのみの集計)

- ・評価 良かった 907人 普通 178人
悪かった 2人 わからない 13人
なし 5人
- ・どこから 長崎市 577人 長崎県内 157人
長崎県外 371人
- ・年齢層
10才 32人(2.9%) 20才 68人(6.2%)
30才 126人(11.4%) 40才 146人(13.2%)
50才 232人(21%) 60才 281人(25.4%)
70才 189人(17.1%) 80才 31人(2.8%)
- ・何によって知ったか
新聞 305人(24%) ポスター 72人(5.6%)
テレビ 326人(25.7%) ラジオ 20人(1.6%)
人から聞いて 93人(7.3%)
広報 71人(5.6%) チラシ 33人(2.6%)
看板 295人(23.2%) その他 56人(4.4%)
- ・興味をひいた展示は何だったでしょう
(1) 外国人居留地 15.2%
(2) 中心市街地 18.4%
(3) 中島川 14.6%
(4) 稲佐地区 7.2%
(5) 長崎郊外 10.5%
(6) 長崎港のパノラマ 14.7%
(7) 長崎市街パノラマ 19.4%

・好評

勉強になった、よかった、感動的、懐かしかった、すばらしかった、面白かった
511人

・要望

今後も展示会を開催してほしい 72人
常設展示をしてほしい 25人
写真集、絵葉書を出版してほしい 73人
大切に保存してほしい
もっとPRして多くの人に見てもらいたい
観光に約立ててほしい

・古写真の感想

長崎の素晴らしさ、歴史を感じた 34人
自分のルーツを見つけた 26人
景観や自然を大事にしたい 20人
彩色はすごい技術だと思う
よく保管されていた

・展示関係

昔と今の対比がよかった 112人
写真の場所がわかるように地図や印をつけてほしい、写真に写っている建物等の名前や説明がほしい 46人
案内する人がいたらよかった 12人
人物写真も見たかった

・解説文について

解説文の訂正があった
わかりにくい部分があった
文字をもう少し大きく
日本語だけでなく他の言葉でもお願いしたい

・その他

無料がよかった
携帯電話の利用は止めさせるべきだ

・不評

場所を検討してほしかった、交通の便が悪い
順路が不明

5. 問題点と今後の改善事項

企画書(案)は早くできあがり、作業についても年内までにはすべて完了の予定で開始していたが、諸条件が解決できず、何回となくスケ

ジュールの変更を余儀なくされた。スムーズに進行するためには、スケジュールを早く検討し、確定させなければならないが、特に予算の確保と配分、展示写真選定、解説文の執筆、パネル作成等をいかに早く解決できるかが最重要事項となることを痛感した。

今回の古写真展を通して、当館の特色・財産である「幕末・明治期古写真」を今後益々発展させていくために、館員一人一人が関心を高め、知識を増やしていかなければならないと改めて感じた。

6. まとめ

15 日間の展示会が有意義に盛況のうちに終了したことの大きな要因としては、まず長崎市との共催開催で実施されたことにあったと思う。資金、物資面の援助は勿論、人的コミュニケーションをはかることができたことは望外の収穫であった。

また、今回は特に長崎関係の写真を選んだことで市民の方々の関心を高めることができたことも加えるべきであろう。

更に、展示古写真の解説文執筆をしてくださった教官と図書館職員の協力関係を挙げることができる。

終わりに、今回の展示会開催にご支援いただいた長崎市観光振興課、古写真解説文執筆と講演を担当された姫野教授、若木教授、勝俣教授、更に関わった総ての図書館職員の方々にお礼を申し上げます。